



気軽な半日釣りのピシアジ 初心者も良型の引きを満喫

●三浦半島京急大津発↓大津く観音崎沖 本誌ABC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

私の沖釣りデビューのターゲットはアジだった。当時のピシアジは手釣りで、ピビッと指先に感じるアジの引きに感動を覚えたものだ。
現在は電動リールタックルが主流となり、船宿の貸し道

具も充実して手軽にアジ釣りが楽しめるようになった。そのうえ初心者でも手堅く釣れて食味も抜群とくれば、人気があるのは当然だろう。東京湾ではオモリ30〜40号の軽いピシを使うライトアジ



▲体高があって肉厚な極上アジは釣っても食べても最高

船と、オモリ130号のピシアジ船がある(内房は60〜80号)。前者は湾奥の浅場で主に20センチ前後の中アジを狙う。一方、後者は浦賀水道近辺などのやや深いポイントで中大アジを狙い、40センチオーバーの特大サイズが釣れることでも知られている。
今回は大型のアジを狙うべく、10月30日に三浦半島京急大津のまるまつ丸に出かけた。同宿は周年貸しポート店を営んでおり、アジ乗合は土日祝日限定の半日船で周年出船している。

初心者が貸し竿でトライ
出船間近の船宿で、なにやらオロオロしているカップルがいたので事情を伺うと、「ボートに乗ろうと思って来たのですが、北風が強いので中止になってしまった……」とのこと。

「だったらアジの乗合船に乗ったら」と提案すると、「分かりました」とさっそくレンタルタックルを借りて急きよアジ釣りに初挑戦することになった。

定刻より少し早い7時20分に私を含めた13名で出船。ポイントには港の目と鼻の先で、飛松裕太船長は魚探を見ながらじっくりアジの反応を探し、7時40分にスタートとなった。「水深は54メートル。底から3メートルでやってみてください」

投入の際は、余計に道糸を出さないようにリールのスプールを軽くサミングしながら仕掛けを下ろし、着底したら糸フケを巻き取りしっかり底タチを取る。

続いて1メートル巻き上げてコマセを振り、もう1メートル上げて2回目、さらに1メートル巻いて3回目のコマセを振ってタナ取り完了。振り出したコマセの帯に仕掛けを同調させることが大事だ。

タナに合わせてしばし待ち、アタリがなければこの一連の動作もう1度繰り返す。それで反応がなければ仕掛けを回収、コマセを詰め直して再投入する。

開始早々、左トモの諸岡さ



アジのバラシ 軽減策

アジはバラシが多い。原因は口が弱いことにほかならないが、少しでもバラシを防ぐために電動リールなら中速くらいで手持ちで巻き上げよう。それでもバラシが多いときは、ハリが口切れしやすい口横に掛かっている場合がある。そのときは、タナを少し上げると硬い上アゴに掛かる率が高まる。

▶取り込みでバラシが多いときはタモを使う

んにアタリ。さっそくアジのお出ましかと思ったのだが、上がってきたのは30センチほどのイシモチ。

続いて左舷胸の間の有賀忠太君(小学4年生)も同級を釣り上げた。

アジが姿を見せたのは開始から20分ほどが過ぎたところで、右舷トモの宮下清子さんが30センチ級をキャッチ。船長によれば宮下さんは毎週同宿に通う常連さんで、昨日に続いて連チャンと聞いて驚いた。アジは群れで移動する魚な

ので、コマセが効いて群れが船下に着くと続けて釣れるものなのだが、通り過ぎてしまつたらしく後が続かない。

さんのオケの中にはすでに5尾のアジが泳いでいる。このときは潮がミヨシからトモ側に流れており、コマセが効く有利な釣り座とはいえさすがの一言だ。

潮回りをすると、再開直後に右舷ミヨシ2番の岩本さんが35センチのナイスサイズを抜き上げ、ようやく船内ポツポツと釣れ始めた。

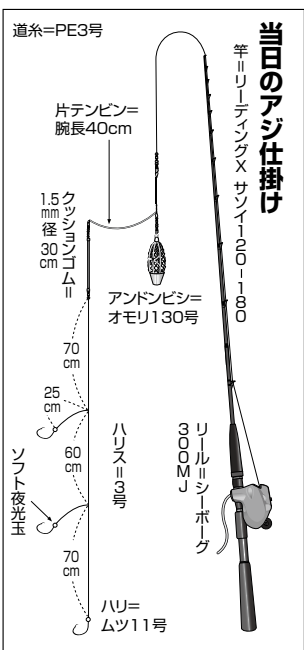
芯太君のお父さんがサバを釣り上げると、芯太君は30センチのアジを取り込み親子で釣りバトルを楽しんでいる。再び右舷トモに行くとき宮下

この調子でどんどん釣りたいところだが、どうしたものか群れがすぐに通り過ぎてしままい食いが長続きしない。アタリが遠のき小移動を繰り返すたびにポツリポツリという展開に。

気になるカップルの釣果だが、最初にアジを上げたのは彼女のほうの山田瑛夢さんで、初めて釣ったアジにうっとり、すぐに彼氏の藤島さんも32センチを釣り上げ仲よく二人でカメラに収まってくれた。

私も写真撮りの合間に竿を出す。1投目からアタリがきつたのか抜き上げたときにバ

●Tackle Guide
まるまつ丸が狙っている釣り場は大型のアジやサバが釣れるのでハリス3号の仕掛けがおすすめ。ハリ数は2〜3本だが、混雑時や潮が速いときはトラブルが少ない2本ハリがいいだろう。



気を取り直して再投入すると、タナに合わせた途端にギユギユンと心地よいアタリがきて33センチのアジを釣り上げた。

再び写真撮りで船上を巡回していると、右舷ミヨシ2番の岩本さんがダブルでアジを釣り上げる。その写真を撮っていると、隣の藤島さんが「タモ」と大きな声で叫んだ。



▲有賀忠太君は30センチ級のイシモチとアジをゲット

残り1時間を切り、早朝から速かった潮が緩んだところで船は観音崎沖へ移動。

ここには多くのアジ船が集まっており、所どころでアジが釣れ上がる光景が目飛び込んできた。

水深は75メートルと深くなつたが、潮が緩いので釣りやすい。左舷トモ2番の坂口さんが、これぞ観音崎沖のアジ

▲山田瑛夢さんは貸し道具でアジ初挑戦。良型を上げて笑顔が弾けた



と評判の42センチを釣り上げ、各自が数尾追釣して11時半に沖揚がりとなった。
当日はアジの活性が低く、釣果は25〜42センチが5〜16尾とやや低調だったが、いい日は30尾以上の良型が釣れているので、ぜひお出かけいただきたい。

●船宿information
三浦半島京急大津港
まるまつ丸
☎046-843-8167
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=土日祝日限定アジ・サバ乗合午前船一人
6500円(コマセ、付けエサ、氷付き)
▶備考=7時半出船。アオイソメ300円

形松 裕太船長



●すずき よしかず/取材の際に私の記事の愛読者さんからサインをお願いされた。丁寧に断りましたが、この一年で一番うれしい出来事でした。